

第576回遊佐町議会定例会一般質問通告書

令和6年12月定例会

通告順	通告者	質問事項	要 旨
1	9番 菅原 和幸 (一問一答)	<p>1. 町政運営の「将来ビジョン」について</p> <p>2. 事務分掌規則に記載の「室」について</p>	<p>遊佐町総合発展計画（第8次振興計画）第9期実施計画策定について、振興審議会に諮問された。令和7年度は、町長が自らの政策を反映させる町政運営の初年度であると認識する。</p> <p>本議会は9月10日に5項目の政策提言を行った。提言に対する対応を含め、町長が描く「将来ビジョン」は、現時点においてどのようなものか。</p> <p>本町には、会計管理者の補助組織である「出納室」のほか、遊佐町事務分掌規則第2条において6課のうち4課に「対策室」と「推進室」が設置され、3つの「室」は各所管課長が室長を兼務している。</p> <p>事務分掌規則第3章には、室長の職務権限の記載がない。室長の職務上の位置づけと職務の内容はどのようなものか。</p> <p>これまでに設置されている「室」について、設置期間はいつまでを予定しているのか。</p> <p>また、新たな設置を含め「室」に係る見直し等を行う予定はないのか。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
2	1番 遊佐 亮太 (一問一答)	1. 観光振興について	<p>鳥海山と日本海に抱かれた遊佐町は観光資源に恵まれている。これを最大限に活かすことは、経済に潤いをもたらし、交流人口が活発化することで移住・定住にもつながっていくと考えられる。現状と今後の展望についてお伺いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当町には年間何名の方が訪れ、町にいくらお金を落としているのか。どの地域から来ている方が多いのか、どこでお金を一番落としているのか、町内での導線はどうなっているのか、季節ごとで状況はどう違うのか、それらを踏まえて強みを伸ばし、足りないところを補う施策をどう打ち出しているのかをお伺いしたい。 ・インバウンドを呼び込むことも重要だが、外国籍の方は当町にどれぐらい来られているのか。国籍や当町までの交通手段、町内での交通手段、多言語対応の状況等についてお伺いしたい。 ・各種イベントを目当てに当町に来られる方も多くいらっしゃるが、その方たちが何を見てそのイベントを知ったのか、どこから来られたのか、いくらお金を落としたのか、さらに伸ばしていくために何をすべきなのか、というような分析はされているのかをお伺いしたい。 ・当町に来られた方に当町のファンになってもらいたいところだが、ふるさと納税やふるさと町民制度への誘導、リピーターとしてまた来てもらうような仕掛けが行われているのかをお伺いしたい。 ・ジオパークの再認定審査を受けているところではあるが、この認定を受けたことでどれぐらいの恩恵があったか、更に効果的に活かすためにどのような取り組みを行っているのかをお伺いしたい。

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
3	2 番 伊原 ひとみ (一問一答)	1. 新道の駅オープンに伴い、町内全域の観光、ビジネス、交流の活性化の展望について	<p>新道の駅建築が令和9年4月オープンを目標に着々と進んでいるようである。</p> <p>第572回6月定例会において「令和6年度新道の駅の駅建築基本設計にかかる提言」が提出され、これらも加味されての進行状況と捉えている。</p> <p>こちらは指定管理運営会社や関係会社がきちんと進めてくれると思われるのでしっかりと連携をとって見守りたい。</p> <p>同時に町内に立ち寄ってもらえる飲食店、宿泊施設等の充実と展開も考えていかなければならない。</p> <p>この案件は道の駅建築と並行して進めていくべきである。</p> <p>町内全域の観光、ビジネス、交流の活性化の拠点となるべき道の駅から町内に立ち寄ってもらうまちづくりの展望を伺う。</p>
4	6 番 本間 知広 (一問一答)	1. 「ふらっと」移転後の施設の利活用は	<p>令和9年度開業を目指し、「新・道の駅」の整備が進んでいる。それに伴い、現在の「道の駅鳥海ふらっと」が移転する予定になっている。</p> <p>移転後は施設が空き状態になるわけだが、利活用については移転が決まったころ「RVパーク」に、という話しがあったが、その後それ以外の話しは出ていないと認識している。しかし、今年の振興審議会で「ふらっと」の空きスペース利活用の話しが出たとのことである。</p> <p>「新・道の駅」の魅力が損なわれないようにするためには、空きスペースの利活用は必須と考える。</p> <p>高速道路の開通、「新・道の駅」開業にともない、来町者が増加することが予想される中、受け皿となる施設として、現在の「ふらっと」は大きな役割を持つと認識している。施設の利活用をどのように考えているのか伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
5	4 番 今野 博義 (一問一答)	1. まちづくりセンター移転計画の進捗について	<p>蕨岡地区にて9月に開催された「まちづくりセンター改築検討委員会」において一定の地域合意がなされた。現時点での進捗状況及び今後の移転に向けてのスケジュール感をお聞きする。現在のセンター老朽化にともない今後発生した場合の不具合（雨漏り・天井崩落等）に対しての町の考え方を伺う。</p>
		2. 新道の駅整備計画について	<p>基本設計を終え現時点での概算建設費用と財源についても想定されるところが公表された。現在のところ補助金・基金を活用してもほぼ半分が起債によると想定される。起債を償還するにあたり、町民負担への町の考え方と、新道の駅建設による町民への還元、町へのメリットをどのように考えているのかをお聞きする。</p> <p>町が策定した「遊佐パーキングエリアタウン（新道の駅）整備計画」においては、①目的地となる場所、プラスから更なるプラス領域へ②危機感を持った世代交代の機会として活用③災害への備えの構築と、再生可能エネルギーの積極的活用としているが現時点において①多彩な設備を有した道の駅であり目的地となり得る道の駅。町内へどのように人の流れを誘引していくのか②災害への備えの構築とするものの、避難所指定の計画はない。当初の整備計画との整合性について町の考えをお聞きする。</p> <p>財源について。指定管理候補者は企業共同体であり町内に本店所在地を有しない。法人住民税の税収が期待できないなかで、建設費用は町が支出、新道の駅の収益は指定管理候補者である構図から負担のみが町民にのしかかるように見えるが、町としての考えをお聞きする。なお、現在公表されている概算建設費用には用地取得費が含まれておらずこれまで支出した費用も含めての「新道の駅整備に係る総事業額」もお聞きする。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
6	8 番 佐藤 俊太郎 (一問一答)	1. 町有地における 樹木管理状況調 査及びその把握 実態は	<p>①報道によれば、国土交通省は11月8日、公園で起きた倒木事故を把握する初の全国調査を始めたと明らかにした。東京都日野市で9月、落下したイチョウの枝の下敷きになって男性が死亡する事故が起きており、安全対策の検討に役立てる。都市公園を管理する自治体に12月上旬までの報告を求めた。</p> <p>調査内容は、「倒木や枝の落下により、人や周辺家屋などに被害が出た事故の有無や原因、樹木の種類など。樹木に異常がないかどうかの具体的な点検手法や頻度。」も報告するよう求めた。との内容であった。これを受け、当町での調査実態と進捗状況をお伺いいたします。</p> <p>②都市公園以外の町有地で、同等の調査が実施されたかお伺いいたします。</p> <p>③町内で発生した令和5年以降の倒木等の発生処理状況とその処理経費をお伺いいたします。</p>
7	3 番 駒井 江美子 (一問一答)	1. 洋上風力事業に ついて 2. 特定の団体との 関わりについて	<p>今年12月に事業者選定予定で、今後事業が具体的に動いていくことになる。 今後のスケジュール、住民の意見はどのように反映されていくのかをお聞きする。</p> <p>今年度に入り、6月15日、11月18日、12月6日と3回、同じ団体と町や学校が共催をしてイベントを開催している。 町とこの団体と関わり、共催をしている経緯、今後をお聞きする。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
8	7 番 那須 正幸 (一問一答)	1. 「ひきこもり」 の現状と対応に ついて	<p>ひきこもりという言葉を知ると、多くは子どもの不登校と思いがちであるが、近年40歳以上の中高年のひきこもりが全国で注目され始めている。ひきこもりとは「様々な要因の結果として社会参加を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態」と定義されている。</p> <p>内閣府が令和4年度に40歳～64歳を対象とした全国調査では83.9万人と推測されている。</p> <p>ひきこもりが注目され始めてから20年以上が経過し当時の青年が中年になり、その親は70歳を超えるようになり、80歳の親が50代の子どもの生活を支えるために経済的、精神的負担を強いられる「80・50問題」が社会的問題となっている。山形県でも5年ごとに民生委員の方々を通して調査は行っているようであるが、出現率の比較では0.13%とほとんど変化はない状況にある。</p> <p>今後高齢化が進む中で、医療的な課題や高齢者への支援など、複数の分野にまたがるような深刻な問題がさらに増えてくる状況にあり、今後さらに進んでいく「90・60問題」に対応できる体制づくりが必要と考える。当町でのひきこもりに対する現状の把握と現在の支援体制、今後の対策について伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
9	11番 齋藤 弥志夫 (一問一答)	1. 子ども意見箱	<p>子どもや若者の意見を聞いて、その声を大切にして、何が最も良いことかを考えて、子どもに関する政策・取り組みを社会の真ん中に据えることも真ん中社会の実現に向ける子ども意見箱の設置は前向きな取り組みである。パンフレットの意見書記載内容で氏名（ニックネーム可）とあるがニックネームで載せるにしても、誰が書いた文章であるかを町は、100%その氏名を把握することは常識である。なりすまし防止対策は十分なのか。</p>
		2. 町民目安箱の設置	<p>これまで町民は広報ゆざ行の葉書に意見や感じたことを書いて出すしかなかったが役場の対応として単純すぎる。文章が長くなったり写真や資料があると状況の説明や理解がしやすい場合もある。このようなとき、葉書1枚にまとめることができる訳もなく投稿者が内容を深く表現できる新たな形態が必要である。ここに町民目安箱の設置が登場する理由がある。紙のサイズと枚数は規制なし、写真と資料を自由に使える条件下で広く町民に意見を募る町民目安箱の設置を提案するものであり、葉書1枚に固執するのは時代錯誤である。</p>
		3. 新道の駅の防災	<p>新道の駅で消火器は何個設置されて、消火栓はどこに配置されるのか。羽田設計の今年8月の配置計画図A06によれば、防火水槽は建物の北側と南側に1基ずつ計2基設置されることになっている。何トンの防火水槽2基の設置工事が実際に行われるのか。日本は地震大国で耐震構造と耐震対策はどのようなものなのか。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
10	5 番 渋谷 敏 (一問一答)	1. 災害発生時における行政対応の総括について	<p>7月25日の豪雨災害では、これまで経験のない大雨による河川の氾濫や土砂崩れ、住宅等への浸水など町内各地に甚大な被害が発生した。発生から4カ月余りが経過し町民からはこれまでも多くの意見や要望を耳にしてきた。</p> <p>今回の被害を教訓に、町は近年の異常気象や大規模災害に対応した防災活動を行うために早急な課題解決を図り実効性のある災害対応マニュアルの見直しが必要であると考えている。これまで町民方々の意見を聞く機会がなく地域の様々な問題が未解決の中で、町が講じる対策を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指定避難所開設時、スムーズに作業が行われなかった原因は。 2. 町のハザードマップが今後更新されることについて、自治体は種別ごとのマップを必要とされている中、地域の実情をどのように反映するか。 3. 豪雨災害にかかる町の対応の中で、地域住民の意見を聞き防災対応を見直す考えはあるか。
		2. 共同宣言締結後に関する町の取り組みについて	<p>生活クラブとJA、遊佐町による共同宣言締結から今年で11年を迎えた。三者協定の意義はこれまでの生産者と消費者の関係から、更なるブラッシュアップを図ることと昨年12月定例会で答弁をいただいた。町はその後関連する事業の展開により課題とする食の安全性や環境保全、エネルギー等にどのように取り組んできたか伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長きにわたる生活クラブとの提携において、世代間の交流を含めた意識醸成をはかること。 2. エネルギー事業に関連する「営農型ソーラーシステム」について。